

中学校第3学年
国語

**AI音声認識サービスによる「話合いの記録」
を共有し、進行の仕方や考えの広がり、深まり
等について効果的に振り返る。**

中学校第3学年 国語 「互いの意見を生かして話し合おう」

■単元の目標

- (1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。
- (2) 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

■単元の概要

「持続可能な未来を創るために私たちが取り組むべきこと」についてグループごとに話題を決めて話し合うとともに、自分たちの話し合いの仕方を振り返って改善し、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりする。

■単元の指導計画（4時間）

第1時

これまでの自分たちの話し合いを振り返り、合意形成に向けた話し方・聞き方の観点を考える。

第2時

「持続可能な未来を創るために私たちが取り組むべきこと」に関する情報収集を行い、伝えたい自分の意見と根拠、根拠に関する具体的な出来事や事実をワークシートに整理する。

第3時

第1時に考えた話し方・聞き方の観点を踏まえてグループで話し合い、そのテキスト記録を基に合意形成に向けた話し方・聞き方ができた部分や考えが広がったり深まったりした部分について振り返る。

第4時

前時の振り返りを基に自分の話し方・聞き方の改善点等を明確にして話し合いの続きを行い、そのテキスト記録を基に、前時と同様の視点で振り返る。

■主な時間の概要

以前に行った話し合いのテキスト記録を確認し、合意形成に向けた話し方・聞き方ができている発言を選び、どのような点がよいのかを考える。

既習の「情報と情報との関係」を想起しながら、自分の意見と根拠などを整理することを通して、具体と抽象の関係について理解を深められるようにする。

実際に話し合いを行った後に、そのテキスト記録を確認し、話し合いが停滞・進行した部分に着目し、どのような発言が合意形成に向けて考えを広げたり深めたりするのに効果的かを分析する。

前時の振り返りを基に、合意形成に向けた効果的な話し方・聞き方のポイントを共有し、目的意識をもって2回目の話し合いを行う。

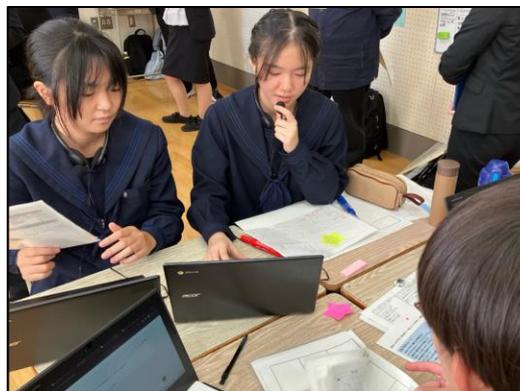
※「テキスト記録」とは、AI音声認識サービスを用いて、話し合いにおける「発言を文字化したテキスト」及び「各話者の発話量を色別に表した時系列のグラフ」を指す。

■ 資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第3時・第4時）

【学習活動の場面（第3時）】

「持続可能な未来を創るために私たちが取り組むべきこと」に関して、グループごとに「食品ロス削減」「住み続けられるまち作り」「地球温暖化対策」など、具体的な話題を決め、自分たちがどのようなことに取り組むべきかを話し合う。

その後、**話し合いのテキスト記録から「合意形成に向けて進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりできている部分」を見付け、その役割や効果を考えてコメントとして入力する活動**を行う。



■ 指導上の工夫と ICTの利活用

① **AI音声認識サービス**を活用することで各自の発言を**クラウド上に保存し共有**させる。

* 発言する際に、1人1台端末に接続したヘッドホンのマイクに向かって話すことで、瞬時に各自の発言を文字化してクラウド上に保存し、共有できるようにする。

② **リアルタイムで更新されるテキスト記録を基に、グループごとに必要な指導**を行う。

* 教師はICT端末上で各グループの話し合いのテキスト記録を閲覧し、必要に応じて論点の整理や進行の仕方などについて指導する。

③ **テキスト記録を基に話し合いを振り返らせ、本単元で身に付ける資質・能力を意識**させる。

* 第1時の冒頭で考えた「合意形成に向けた効果的な話し方・聞き方」の観点に沿って自分たちの話し合いを振り返らせることで、本単元で身に付けるべき資質・能力を意識できるようにする。

〈クラウド上で共有されるテキスト記録の一部〉



〈文書ファイル形式で保存し、コメントを入力したテキスト記録の一部〉

A:これから食品ロスについて話していきます。流れとしては最初に意見を出し合って、方向性を決めてから、実際の取組をまとめていきたいです。

B:自分の意見としては、食品ロスっていうのはやっぱり身近なことだと思うので、買う量とか、そういう基本的なことに目を向けて行動の仕方を改善していければいいんじゃないかなって思いました。

C: **Bさんに質問で、行動の仕方を改善するっていうのは、具体的に何をやるんですか。**

B:はい。調べたんですけど、その食品ロスで食品を捨てるとか、そういうきっかけがやっぱり賞味期限とか消費期限によってしてしまうっていう家庭が多いってわかったので、賞味期限を見てから食品を買うとかいう行動をとっていけばいいのかなって思いました。他にもたくさんあると思います。

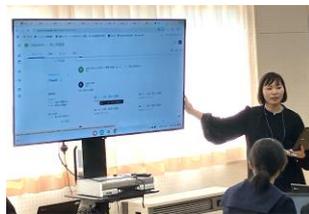
C

別の意見を否定するのではなく、その意見の良い点や改善点をメンバー全員で共有できるように具体的な説明を促す質問をしている。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第4時）

【学習活動の場面（第4時）】

話し方・聞き方を工夫していたグループのテキスト記録を基に、「自分とは異なる意見が出たときに、具体的な説明を促すことで、合意できる部分を見いだす」など、**合意形成に向けた効果的な話し方・聞き方のポイントを学級全体で共有し、自分の話し方・聞き方の改善点を明確に意識した上で、第3時の続きを話し合う**ようにした。



【子供の「深い学び」の姿】

地球温暖化対策について話し合っていたグループでは、環境負荷の高い肉食の代替となる昆虫食などのメリットを発信する取組として「ポスターを作るとよいと思う」という意見が出された。その直後に、Eが次のような発言をした。

ポスターはどのように作りますか。伝える情報が多いと、読みづらくなってしまいます。どうしたら効果的なポスターになるかについて、具体的に考えませんか。

この発言を受け、他の生徒たちも意見を述べ、「インパクトのあるポスター」と「詳細な情報を載せたポスター」の2枚を作成するという案で合意が形成された。

（Eの振り返りの一部）

今回は、各自が意見を言い、それらに反対するという話し合いになってしまった。しかし今回は、合意形成に向けて効果的な質問の仕方を意識し、対立する意見の背景や、その意見を発言した人の考えを理解しようという姿勢で質問することができた。

【当該指導での「深い学び」】

Eは、第3時の話し合いでは、話し合いの流れを捉えずに発言したり、他の生徒の意見をすぐに否定したりする姿が見られたが、第4時では、他グループのテキスト記録を基に、自分の話し方・聞き方の改善点を明確に意識するようになった。その結果、**他の生徒の意見をすぐに否定するのではなく、より具体的な考えを引き出した上で、その適否を他の生徒と共に検討する発言が見られるようになった**。また、そのように話し合いを進行することで、**話し合いの前は考えていなかった「昆虫食」のメリットや具体的な情報発信の方法などについて、他者の意見と自分の意見とを関連付けながら、グループの合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができた**。

■指導上の工夫とICTの利活用

④前時の振り返りを基に、合意形成に向けた話し方・聞き方のポイントを意識させる。

*学級全体の学習改善を促すための視点を、前時のテキスト記録を基に具体的に示すことで、自分のグループでの振り返りでは気が付かなかった視点についても意識させ、学習の改善に取り組めるようにする。

⑤再度話し合いに取り組みせ、**テキスト記録を基に学びの深まりを実感させる**。

*自分が改善したい点を明確にして話し合わせた上で、教師は各グループの話し合いの状況をテキスト記録で確認しながら必要な支援を行う。話し合い後に、テキスト記録を基に振り返らせ、学びの深まりを実感させる。

学習指導要領や解説との関連

中学校学習指導要領 第2章 第1節 国語

第2 各学年の目標及び内容〔第3学年〕の2 内容

〔思考力、判断力、表現力等〕A 話すこと・聞くこと

(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

オ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。

出典：中学校学習指導要領P36

進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合うとは、話し合いが目的に沿って進むような手段を講じたり、それぞれの発言を目的や展開に照らして取捨選択したり結び付けたりしながら話し合うことである。

合意形成に向けて考えを広げたり深めたりするためには、立場や考えの違いを認めつつ、納得できる結論を目指して、それぞれが建設的な意見を述べながら話し合うことが重要である。

出典：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編P117、118